

## 第2章 地区別計画

### ●「地区別計画」の推進について

#### (1) 地区別計画推進策定委員会について

平成26年度からは、地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指しつつ、第3期（平成28～32年度）計画策定を見据えた意見交換を活発に行う「地区別計画推進策定委員会」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、これまでの地域活動を継続し、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、各地区の実状に応じて年間2～11回開催され、平成26年度は計画推進とともに、第3期に向けた地域の課題や具体的取組について活発な意見交換を行いました。

また、地区別委員会で話し合われた内容をより多くの地域の方々に周知するため、「地区別計画推進策定委員会通信」を各地区2回程度発行し、連合自治会等の協力の下、地区内での班回覧等を行いました。

#### (2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「地区支援チーム」が地区ごとに編成されています。そして、「地区支援チーム会議」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。また、チームの支援の力量を向上させるため、研修なども行っています。（→P.8 参照）

#### (3) 地区別計画推進策定委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「地区別計画推進策定委員会連絡会」を4月と10月に開催しました。地区別委員会の開催状況や第3期計画策定を含めた今後のスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

#### (4) 地区別計画推進活動報告

地区別委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「パネル」を制作しました。また、平成27年2月に開催した「社会福祉大会第2部」では、三保地区、長津田地区の代表者から取組状況の報告を行いました。（→P.77 参照）

#### (5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向けて、区役所・区社協等による事業費補助制度を活用しています。このうち、「緑区地域課題チャレンジ提案事業」では、5地区の地区別計画に関連する事業が採択されました。平成24年度から継続している「地区別計画推進費（→P.6 参照）」とあわせ、さまざまな補助金等の制度を活用し、地域住民の主体的な取組による地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

## ●平成26年度 地区別計画推進状況

＜平成26年度 地区別計画推進策定委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	地区別委員会での主な検討概要
東本郷	31人	3	6/24 9/30 1/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ラジオ体操」(6か所)は参加者が多い。今後は横のつながりを作りたい。</li> <li>◆あいさつ運動を大人が率先して行き、地域のつながりを強めることが必要。</li> <li>◆ひがほん郷まつりをバージョンアップ、レベルアップして継続していく。</li> <li>◆高齢化が進んでおり、徘徊等についての情報共有の仕組みづくりが必要。</li> </ul>
鴨居	24人	3	6/9 10/11 2/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆発災時だけでなく、常時につながる見守りの仕組みづくりを考えていきたい。</li> <li>◆防災ささえあいカードや要援護者名簿の開示同意欄を作ってはどうか。</li> <li>◆40代をターゲットに、後継者育成に向けて取り組みたい。</li> <li>◆楽しいことでのつながりから、関係づくりを進めたい。</li> </ul>
竹山	27人	2	6/11 12/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア依頼する・対応する人が固定化する一方で、登録しても活躍できていない人がいる。</li> <li>◆今までの活動者の体験談を伝えるなど、広報伝達の工夫が必要。</li> <li>◆自治会役員の負担等を見直し、自治会をPRし、加入率を上げていきたい。</li> <li>◆竹山の地域資源をいかして世代間交流を進めたい。</li> </ul>
白山	30人	11	原則毎月 第4土曜日 (4月を除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆弱者の方(認知症や障がいのある方)への対応をどのように検討するか。</li> <li>◆ボランティアセンターなど、ボランティアをしたい人の受け皿を作っていきたい。</li> <li>◆高齢者は自治会で機会を作らないと、孤立してしまう危険がある。</li> <li>◆地区のHPを立ち上げ、情報を蓄積してはどうか。</li> </ul>
新治中部	30人	3	7/10 12/5 2/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆若い世代のほか、元気な高齢者に地域活動に参加してもらう取組をしたい。</li> <li>◆何事も役員だけでなく、「全員で取り組む」という住民意識の向上が大切。</li> <li>◆防災については、日頃から隣近所のつながりが大切。</li> <li>◆要援護者の把握には、時にはプライバシーをオープンにすることも大切では。</li> </ul>
三保	36人	3	7/15 11/22 3/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆住民同士のつながりをもっと必要。楽しかったと思えるイベントを増やしたい。</li> <li>◆みんなで集まれる拠点や、気軽に集まれるサロン・カフェができると良い。</li> <li>◆老人会により多くの人に参加してもらいたい。</li> <li>◆高齢化が進んでいるが、作業のあとに少しの間集まる機会があると良い。</li> </ul>
山下	21人	2	6/26 11/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「つながり」は高齢者だけではなく、子どもについても大切。もっと子ども会を活発にしたい。</li> <li>◆今年度も元気づくりステーションと赤ちゃん教室とのコラボレーション企画を行いたい。</li> <li>◆新たな情報伝達手段として、地区社協で「笑顔のたより」第1号を発行した。</li> <li>◆デジタル無線機は、防災訓練の際の各部署の連絡などにとでも役に立った。</li> </ul>
新治西部	28人	2	6/12 2/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆取組を通じて、地域のコミュニケーションやふれあいができていると感じた。</li> <li>◆老人会は様々な活動をしているが、会員が増えないことが課題。</li> <li>◆単位自治会ごとに、ホームページ作成や地域菜園作りの検討、気軽に自治会活動を手伝えるよう応援隊を結成するなど、取組を進めている。</li> <li>◆夏祭りで各自治会の交流ができるよう、工夫したい。</li> </ul>
十日市場団地	27人	3	6/18 10/24 1/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢化が更に進むので、自治会・民生委員などで見守りが必要。</li> <li>◆若い人たちにも自治会に入ってもらい、活性化していくとよい。</li> <li>◆料理など、地域で子どもたちに生活力をつける企画もしてはどうか。</li> <li>◆集会所を土日に子どもたちに開放し、フリースペースにしたらどうか。</li> </ul>
霧が丘	25人	3	6/28 9/27 12/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国籍の住民とお互いに理解を図るため、挨拶や交流会を継続する。</li> <li>◆子育て世代の住民が地域の行事に出てこない。</li> <li>◆引っ越してきた時こそつながりを作るチャンスなので、積極的に声かけをする。</li> <li>◆防犯パトロールを健康づくりの面からもPRしたい。</li> </ul>
長津田	31人	2	6/14 11/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新聞配達員の見守り協定について、今後さらに発展させたい。</li> <li>◆自治会の回覧をわかりやすくして、行事や活動への参加を増やしたい。</li> <li>◆認知症サポーター養成講座を小中学校でも行き、皆で認知症の方を見守ることのできる地域にする。</li> <li>◆障がい児者支援施設との交流などを通じ、障がい児者への理解を進めたい。</li> </ul>
合計	310人	37		